

# クオリティー・オブ・ライフ

～家族の健康管理のために～

# 泌尿器の病気と向き合って、もう悩まない！

## 市民公開講座「いきいき健康フォーラム」の講演から

主催/サンケイリビング新聞社、ファイザー

### 第1部 講演

#### 「男性のおしっこ悩み」

川崎医科大学泌尿器科学教室教授 永井敦先生

1月12日、ウェルシティ高松で「いきいき健康フォーラム—知っておきたい泌尿器の病気と治療法—」(主催/サンケイリビング新聞社、ファイザー)が開催されました。来場者は熱心に講演に聞き入り、家族や自分自身のQOL(クオリティー・オブ・ライフ=生活の質)を高めるための健康管理について、正しい知識を学びました。その講演内容の一部を紹介します。



右から座長の寛善行先生、大橋洋三先生、小島圭二先生、杉元幹史先生、永井敦先生、上田朋宏先生。質問コーナーでは、さまざまな泌尿器の病気や疾患の実態などの人ごとではない質問内容に、客席で真剣にメモをとる姿も見られました

「おしっこ悩み」は、下半身問題の解消は、夫が肥大し、その真ん中を婦人にも影響を与え、それが離婚世帯の減少につながり、結果、環境にも良い」という独自の視点から始まった第1部。

まずは男性特有の病気「前立腺肥大症」。70歳以上で、約70%が罹患(のりかん)し、そのうち約40%が何らかの症状を抱えています。主には「いきまないと排尿できない」「残尿感がある」など。

これは膀胱(ぼうこう)の下側にある男性の生殖(こうご)で行く(頻尿、トイレま

「頻尿・尿意切迫感・膀胱痛と向き合うために—間質性膀胱炎とは何か?—」

主な症状は頻尿や尿意切迫感、そして、尿意を我慢すると、膀胱に痛みや不快を感じる。膀胱炎(かんしつせいぼうこうえん)に苦しむ人は、日本では約25万人とも。間質性膀胱炎では、脳梗塞や糖尿病などの合併もなく、見た目は健康のもの。その上、膀胱尿に細菌がないため、検査しても異常なしとされた

### 第2部 講演

#### 「頻尿・尿意切迫感・膀胱痛と向き合うために—間質性膀胱炎とは何か?—」

京都市立病院泌尿器科部長 上田朋宏先生

「残尿感がある」など。これは膀胱(ぼうこう)の下側にある男性の生殖(こうご)で行く(頻尿、トイレま

「頻尿・尿意切迫感・膀胱痛と向き合うために—間質性膀胱炎とは何か?—」

主な症状は頻尿や尿意切迫感、そして、尿意を我慢すると、膀胱に痛みや不快を感じる。膀胱炎(かんしつせいぼうこうえん)に苦しむ人は、日本では約25万人とも。間質性膀胱炎では、脳梗塞や糖尿病などの合併もなく、見た目は健康のもの。その上、膀胱尿に細菌がないため、検査しても異常なしとされた

「頻尿・尿意切迫感・膀胱痛と向き合うために—間質性膀胱炎とは何か?—」

主な症状は頻尿や尿意切迫感、そして、尿意を我慢すると、膀胱に痛みや不快を感じる。膀胱炎(かんしつせいぼうこうえん)に苦しむ人は、日本では約25万人とも。間質性膀胱炎では、脳梗塞や糖尿病などの合併もなく、見た目は健康のもの。その上、膀胱尿に細菌がないため、検査しても異常なしとされた

「頻尿・尿意切迫感・膀胱痛と向き合うために—間質性膀胱炎とは何か?—」

2008年2月16日号 「リビングたかまつ」に掲載されました